ヒルベルト空間論＆作用素論：正誤表

2020/06/1

頁	誤	正
001	（**記号表**内） ϕ：空集合とが互いに	ϕ：空集合
009	**定理 1（Polalization Identity）**	**（Polarization** …）
014	（**証明**中の式(3)） 式(2)の左辺＝ $\sup_{\|f_0\|=1}\|Tf_0\|\cdot\|g\|$.	式(2)の左辺≧ $\sup_{\|f_0\|=1}\|Tf_0\|\cdot\|g\|$. （$n.b.$ この f_0 は任意でないことは文脈からおわかり頂けると思われる．なお，“ $\sup_{\|f_0\|=1}$ ”はなくてもよい.）
034	（下から 9 行目） 2） $E_k=\mathscr{A}$	$E_k\in\mathscr{A}$
035	（上から 3 行目） … であるが，	… であるから，
〃	（上から 6 行目） … $f(x)\in\mathbb{R}$ として	… $f(x)\in\overline{\mathbb{R}}$ として
7	（上から 1 行目） $\|T^{-(\alpha+\beta)}S^{(\alpha+\beta)/2}T^{-(\alpha+\beta)}\|$	$\|T^{-(\alpha+\beta)/4}S^{(\alpha+\beta)/2}T^{-(\alpha+\beta)/4}\|$
〃	（下から 8 行目） … 全ての点を取り尽くせる ….	… 全ての点で上述のような不等式が成り立つ （∵ **定理◇-10** による）….
38	（**証明**中下から 7 行目） 任意の零集合列を $N_1\subset N_2\subset\cdots$ とする.	適当な零集合列を $N_1\subset N_2\subset\cdots$ とすると，
39	（下から 11 行目） … $\{N_k\}_{k=1}^{\infty}\subset E$ を任意の零集合列とし，	… $\{N_k\}_{k=1}^{\infty}\subset E$ を適当な零集合列とし，
42	（**証明**中上から 11 行目） … 或る $\tilde{n}_0\in\mathbb{N}$ があって $n\leqq n_0$ なら	… 或る $n_0\in\mathbb{N}$ があって $n\geqq n_0$ なら
94	（上から 1～2 行目） $\mathscr{S}''(\mathbb{R})$	$\mathscr{S}'(\mathbb{R})$
121	（下から 9 行目） … または，$a\mathrm{R}b$ が $b\mathrm{R}a$ なら	… または，$a\mathrm{R}b$ かつ $b\mathrm{R}a$ なら
122	（上から 1 行目） ii）… なら $a=a$	… なら $a=b$
128	**例 2**） $f(0)=1$ の任意の近傍 V …	$f(0)=1$ の十分小なる任意の近傍 V …
136	（上から 9 行目） … 選んで，全体を A …	… 選んで，その全体を A …
139	（下から 2 行目） $0<\varepsilon'<\varepsilon$	$0<\varepsilon'\leqq\varepsilon$
167	（上から 2 行目） … を其の部分空間 …	… を其の閉部分空間 …
180	（下から 10 行目） $C_0^2(a,b)$ 上の作用素とも見れば，	$C_0^2(a,b)$ 上の作用素とも見ることにより，
187	（下から 8 行目） … 容易に …	… 安易に …
221	（上から 5 行目） … **式(14-2-11)** …	… **式(14-2-10)** …
269	（**証明**中下から 8 行目） $k(\geqq n)$ を任意に固定 …	n を任意に固定 …
288	（上から 6 行目） 3） $\mathrm{w}-\lim_{\substack{a\to-\infty\\b\to+b}}$	3） $\mathrm{w}-\lim_{\substack{a\to-\infty\\b\to+\infty}}$
294	（下から 2 行目） …. $\mu<\nu$ とすれば，	…. $\lambda<\mu$ とすれば，
353	（上から 16-17 行目） 従って $\{f_m\}$ …，… f である …	従って $\{S_nf_m\}_{n=1}^{\infty}$ …，… S_nf である …